



「奈良古典芸能フェスティバル」を開催 ～奈良フェスティバル実行委員会～

「奈良古典芸能フェスティバル」は、日本のみならず世界的にも高い評価が定着してきた古典芸能である歌舞伎、能・狂言、文楽、雅楽などを古都奈良で開催するフェスティバルである。

奈良県内の社寺等（有形の文化財）と、古典芸能（無形の文化財）を融合させ、二つの文化遺産を資源として、国内外からの観光客を誘致することを目標としている。

■ターゲットは国内外の芸術文化愛好層

フェスティバルへの誘致対象者としているのは、国内では歴史や文化に関心を抱く人たち、古典芸能のファンなど文化愛好層、熟年層などである。また、従来の奈良ファン、古都愛好ファンにも、古典芸能をはぐくみ、物語の舞台を提供（義経千本桜、壺阪霊験記など）した奈良を、いっそう深い感動を持って体験してもらうことを目指す。

海外に対しては、日本に関心を持つ層に対して、日本の歴史と文化の粋が一堂に会した芸術祭を開催し、短期間で日本を堪能できる「日本早わかり」的なところをアピールする。

■「奈良古典芸能フェスティバル」の内容

平成24年の実施に先駆け、前年の平成23年から「奈良フェスティバルプレイベント 吉野芸能祭2011」が開催された。平成23年9月17日には、「ならフェスティバル記念セミナー」が帝塚山大学で行われ、続いて10月8日、9日には、「東日本大震災復興支援『吉野芸術祭 金峯山寺奉納歌舞伎』」として、片岡仁左衛門や片岡孝太郎出演により「藤娘」、「連獅子」が演じられ、約2,000人の参加があった。

初開催となる平成24年度は、10月29日、30日に薬師寺大講堂前特別舞台上、「世界遺産 薬師寺奉納歌舞伎舞踊公演」が行われ、市川海老蔵や中村壱太郎出演の「橋弁慶」、「春興鏡獅子」が演じられ約6,000人の参加があった。



市川海老蔵『鏡獅子』
獅子の精



薬師寺 大講堂

また、関連催事として10月8日には、奈良結崎発祥の観世流特別講演、大和まほろば能「安宅勸進帳 瀧流之伝」が奈良県新公会堂能楽ホールで開催された。

■「クールジャパン・フェスティバル」を目標に

「奈良フェスティバル実行委員会」では、歌舞伎公演でスタートしたフェスティバルであるが、能・狂言など日本の古典芸能を結集させると同時に、奈良に伝承される大和神楽などの民族芸能も、今後上演していく予定である。

また、運営にあたっては、地元の社寺の協力はもちろんのこと、市民グループ、地元商工会などが主体的に古典芸能の上演を補完するセミナーや、体験型イベントを行い、地域を挙げてのフェスティバルとして、地域の活性化も図っていく。

同委員会では、将来的には古典芸能だけでなく、伝統工芸、お茶などのクラシカルなジャンルから、アニメ、ファッション、ロボットなど最先端のジャンルまでを網羅して開催する。豊かな情感、精緻な技法、斬新な意匠などを特徴とした日本の文化を世界に向けて発信する「クールジャパン・フェスティバル」を目指しているとのこと。

日本の文化が最初に形成された「はじまりの地、奈良」にふさわしいイベントに期待が集まる。

（奥 桂子）